

## 折々の記 No210 : 取り戻すべきもの！

(H25/7/22 記)

第 23 回参議院選挙は、自民（公明）党の圧勝に終わり、投票前の予想通りの結果となった。1 強多弱の時代が到来した。我らが佐藤正久議員も早々と当選を決め、慶賀に耐えない。前回 2007 年の得票は 25 万 1000 票余り、今回はそれを 75,000 票ほど伸ばした。比例選で個人名で投票した人よりも党名で投票した人が圧倒的に多いという事実が佐藤議員が前回の倍以上の得票を取れなかった要因だ。因みに比例選得票総数 1846 万のうち 1410 万が党名投票である。防衛省自衛隊関連票が如何程か不明ではあるが、100 万程度とみて間違いではなかろう。そういう面での啓蒙が必要だ。黄金の 3 年間と呼ばれる今回の選挙結果を、今後如何に活かすかが重要である。

幾つかの私見を列記する。

- ① 国民の期待感を裏切らない経済政策の着実な実行が重要だ。政権の真価が問われる。
- ② 驕ることなく、謙虚で丁寧な政権運営を行わなければ、次期はないと思うべし。しつぺ返しは厳しいのが通例だ。政権を支える裏方がしっかりしているようだから、ある面では安心だが。
- ③ 「日本を取り戻す」との公約を確行すべし  
標語・スローガンの中身は同床異夢かもしれない。戦後の日本が忘れてしまったもの、失ったもの、敢えて忘却しようとしているものを現代的な意味に変換して国民に植え付けて欲しい。日本人としての誇りや矜持、日本人らしさなるもの、日本社会の良きものを取り戻して欲しい。そして、防衛についても余りにも歪な状態からの脱却を期して欲しい。スローガン倒れにならぬように願いたいものだ。地盤沈下した日本の存在感を示して欲しい。
- ④ 憲法の改正こそが、次期政権が取り組むべき最大の課題であり、戦後政治の決算の象徴でもある。性急に進める必要は毫もないが、向こう 3 年間に成し遂げて欲しいものだ。公明党とのギリギリの調整や、民主党の一部有志との連携を視野に入れて取り組んで欲しい。
- ⑤ それにしても、民主党政権の 3 年間は何だったのだろうか？鳩・管・小沢の時代は日本人の悪しき面、オポチュニズム傾向を曝け出した不毛の時代であった。選挙制度の問題でもあるかも知れないが、日本人が成熟する為の試練でもあったのかも知れない。日本人が何を学んだか、何を学ぶかが問われるべきだろう。日本政治が墮落した時代だった。  
民主党は正に解党的出直しをすべきだろう。寄り合い所帯ゆえの弱点を曝け出している。存在意義すらないのかもしれない。
- ⑥ 日本共産党の宣伝カーが巡回しているが、このような地道な活動も重要だ。方法論は色々あろうが、・・
- ⑦ 政権交代可能な健全野党の存在が望まれ、その役割を担った民主党だった筈だが、期待外れに終わった。「みんな」や「維新」は対抗軸足りうるのか？健全野党に育てて欲しい。選挙協力があれば、もう少し存在感を示せたかもしれない。